

# 令和6年度 地域連携推進会議 議事録

日時 令和6年11月25日(月) 13:45～15:30

場所 柿の木坂グリーンハウス

構成員 ①利用者②利用者家族③他事業所職員④民生委員⑤地域住人

⑥柿の木坂グリーンハウス管理者及びサービス管理責任者(山崎) の計6名

## 研修の目的・目標

グループホームと地域が連携することで

- 1 利用者と地域との関係づくり
- 2 地域の人へグループホームや利用者に関する理解の促進
- 3 グループホームやサービスの透明性・質の確保
- 4 利用者の権利擁護

## 会議までの流れ

利用者、利用者家族、他事業所職員、民生委員、地域住人を構成員として選定→構成員へこの会議の主旨を説明して、就任依頼→会議日時を決める→議題を検討し資料作成→当日「ご参画のお願い」をもう一度説明してから「地域連携推進会議 参加承諾書」に署名していただく→会議開催

## 会議の進め方

- ・各委員が自己紹介をおこなった。
- ・グループホームの説明として、パンフレットや利用者居室の写真で説明のあと、職員体制(今年度からピア非常勤職員さんが加わり3名)、職員勤務時間、地域との交流では町内会連合防災訓練があること、職員研修の方法や内容、サービス提供記録等を説明した。
- ・利用者様へ山崎から質問するかたちでグループホームでの毎日の食事、入浴、洗濯、日中活動、お休みの日の過ごし方、楽しんでいる事、今の生活に満足しているか、職員との関係、入居者同志のかかわり、地域に好きなところはあるかについて話していただく。
- ・利用者家族としてこのグループホームに入居したきっかけ、お子さんについて思っている事、グループホームを利用して思う事、ひとり暮らし移行への不安等について話していただく。
- ・民生委員や地域住民から利用者や利用者家族への質問や助言があった。又、数年に渡ったコロナ以降の人間関係が希薄になり、以前の日帰り旅行は希望者が多く断るぐらいであったのに今は10名満たず、バス席も2席をひとりで使うようになったという。
- ・山崎から今の利用者さんの様子を見ると、皆が集まって旅行に行く、食事をするという事は断られる方が半数であること、町内会連合防災訓練も入居時に必ず参加してくださいと確認してから入居されたが、結局「無理です、参加したくない」という方が2名いたと発言した。
- ・他事業所の福祉に知見のある方から、柿の木坂グリーンハウスが通過型でその役割や難しさ、滞在型グループホームとの違い等福祉について説明があった。
- ・山崎から通過型グループホームなので3年期限で地域へアパートを借りてひとり暮らしをする為に送り出すのだが、障害特性で大家さんに断られてしまう事や高級住宅地なので家賃が高く探すことが大変である、生活保護の方は上限額が53,700円で更に物件がないことを伝えた。

## 会議のまとめ

山崎から最後に『精神障害者の方が地域で自分の暮らしをするうえで、地域の方々の理解が最も重要であり、この「地域連携推進会議」に期待されていることです』とお伝えし、会議を終えた。

添付資料

- ・(事業所向け)地域連携推進会議の概要
- ・地域連携推進員の手引き
- ・地域連携推進会議の手引き

以上